



歩きながら足のトラブルを軽減する“DSISパッド”

治療の現場から生まれたDSISパッドは足のトラブルに悩む人の必須アイテムです

- 回内・回外の過度な動きを補整し、歩行を楽にする。
- 足指を使う歩行を促して運動性を高め、足のトラブルを軽減し、回復を補助する。
- DSISパッドを組み合わせ、正しくバランスのよい動きを引き出す。

土踏まず部分に使用する
2軸アーチパッド

土踏まずからかかと部分に使用する
ロングアーチパッド
(右ページ参照)

部分補助に使用して微調整する
LTWパッド

かかと部分に使用する
ヒールウェッジパッド

つま先部分に使用する
前足ウェッジパッド

土踏まず部分に使用する
3軸アーチパッド

かかと部分に使用する
Rウェッジパッド



用途に合わせて選べる ベースインソール (P.8参照)

足のトラブルの評価法

代表的な足の動きのパターン

日常の歩行における足の動きは、4種類のパターンが組み合わされています。足のトラブルは、この動きの中で不十分な回内、回外、または過度の回内(オーバープロネーション)や回外(オーバーサビネーション)によって生じてきます。



1) アライメントとフットプリンターによるチェック

アライメント	フットプリンター	障害例
視診上やフットプリンター等でオーバープロネーションとオーバーサビネーションの評価を行い、足の動きと身体の動きの関連性を観察します。	● 脛脛・鶏眼の有無 ● 重心の位置 ● 足の縦アーチの高低 ● 足の横アーチの状態 ● 足趾への加重状況 ● 左右の足の大きさの違い フットプリンターを一定の条件設定で使用して足底を再現し評価する。	*この障害例はあくまで参考です。 *片足のみの動きをとらえた場合です。 *アーチパッドが足に当たって痛い場合は、ヒールウェッジパッドやRウェッジパッドをヒールウェッジにして(右図のように)かかと部に取り付けます。
オーバープロネーション (過回内)		アキレス腱炎内側型、 足底筋膜炎前方-中央型、 後脛骨筋腱炎、有痛性外脛骨障害、 長母趾屈筋腱炎、母趾種子骨障害、 外反母趾 toe-out type、扁平足障害、 足関節捻挫後遺症 (over pronation type)、 鷓足炎、変形性膝関節症外側型
オーバーサビネーション (過回外)		アキレス腱炎外側型、足底筋膜炎後方型、 長母趾伸筋腱炎、シンスプリント、 足関節捻挫後遺症 (over supination type)、 凹足変形による障害、外反母趾 toe-in type、 腸脛靭帯炎、変形性膝関節症内側型

2) 靴の評価

● 靴の片べり、前足部のすり減り、中足部のすり減り、アッパー部分の変形、踵骨部の変形などの有無を観察します。
* 足底挿板の効果をもとめるためには足部の評価といっても足のみでなく、静的評価と動的評価も診て、身体全体の中で足の評価を行うことが重要です。例えば頭部、肩部、脊柱、股、臀部の左右の傾斜やX脚、O脚の足部形態はどうか、下腿のねじれと足部形態との関連はどうか、股関節の前捻角と足部形態との関連はどうかといった問題が考えられます。

DSIS制作方法に関する詳細は、DSISパッド使用マニュアルをご参照下さい。

- DSISパッド使用マニュアル [96067]
- A4判、8頁

DYMOCO講習会のご案内

NPO法人オソティックソサエティによる、講習会も各地区で開催されていますので、ぜひご参加下さい。詳しくは、弊社までお問い合わせ下さい。

動きから見る足底挿板療法〈入門編〉

DSISソルボ解説DVD (50分)

企画・構成・監修 内田俊彦(うちだ としひこ)
整形外科(医学博士)
日本靴医学会会員
NPOオソティックソサエティ理事長

内容 ● 足・脚の構造と動き
● 静的評価
● 動的評価
● 歩行周期の解説・歩行を観察する
● DSISパッドの作用
● インソールの作成手順(ベースインソールの型取りから歩行まで)

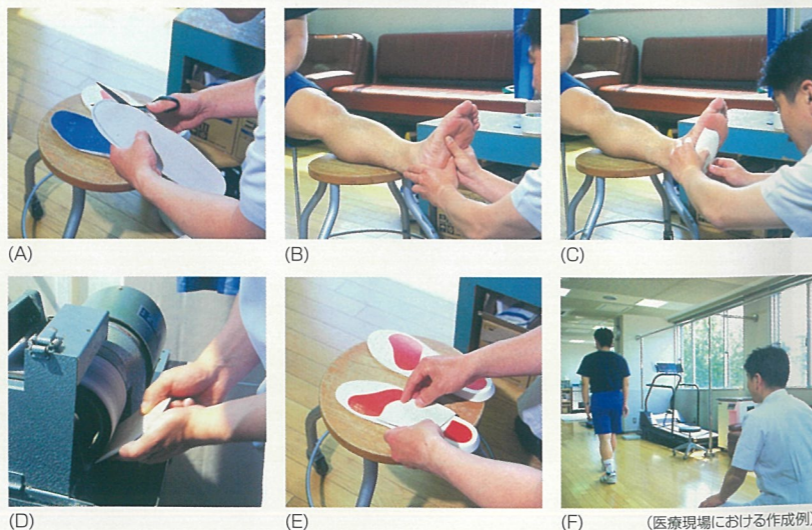
佐々木克則(ささき かつのり)
理学療法士
日本体育協会アスレチックトレーナー
NPOオソティックソサエティ理事

足底板作成例

1. 現在使用しているシューズから中敷を取り出す
2. フットプリンターで足底圧を測る(負荷の場所を確認)
3. インソールを元の中敷に合わせてカットする(写真A)
4. 立位姿勢を観察し、肩、背骨、骨盤などのバランスをチェックする
5. 歩行を観察する(左右のバランスや手の振りなどの観察)
6. アーチの位置と形状などを観察する(写真B)
7. 足に合わせて、パッドをカットする(写真C)
8. 段差が気になる場合は、パッドをグラインダーでカットする(写真D)
9. パッドに両面テープを貼って、インソールに固定する(写真E)
10. インソールを入れたシューズを履かせて、左右の肩、腰、足部等がバランスよくリズムカルに動いて歩行できているかを観察する(写真F)
11. 必要に応じて、調整用パッド(プレーンシート等)をつける
12. 再度、歩行を観察して、違和感も含めて確認して完成

* 接着については、取り外して調整しなければならない場合には両面テープを使用し、パッドの調整が不要で固定する場合は、ソルボ専用接着剤(別売)を使用して下さい。

* 足底板の使用チェックとして、3日~1週間後に再度チェック(制作過程12)することが望ましいでしょう。



(F) (医療現場における作成例)